

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 9	提案機関名 JAはだの
要望問題名 山間地域における鳥獣害対策有力作物「葉ニンニク」栽培技術の確立と消費の拡大について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 丹沢山間地域における鳥獣被害は、尋常ではなく、毎年発表される被害調査集計値は、実被害のごく一部であると容易に想像できます。農作物生産現場では電気柵設置が必須であることから生産面積は減少傾向です。さらに、高齢化と鳥獣被害により生産の意欲は年々減衰、耕作放棄地は増すばかりです。 そうした中で「葉ニンニク」は、・鳥獣忌避作物として有力なこと、・荷が軽く高齢者向けであることなどから、山間地域には大変有効と思われます。栽培が始まったこの数年は、直売所やスーパーなどへの出荷が始まり、新聞やテレビ、ラジオなどのメディアでの紹介も頻繁になり、認知されつつあります。 現在、葉ニンニク栽培を通じてJA間（JAあつぎ、JAはだの、JAいせはら、JA県央愛川）の交流も始まり、今後、神奈川県山間地域の特産化に向けた取り組みを本格化させたいため、農業技術センター協力のもと、栽培技術の確立と消費PR、6次化など多面的な試験研究をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 生産技術部、企画経営部	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課 企画経営部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 I-2 (1) 野菜類の高品質・安定生産技術の開発 ア 野菜類の栽培法の確立 II-1 (1) 県産農産物のニーズ解明と商品性評価 イ 新品種等県産農産物の消費者ニーズの解明			
対応の内容等 葉ニンニクについては、平成21～24年度まで三浦半島地区事務所で試験を行い、12月中旬～4月中旬までの連続収穫が可能であることを明らかにしました。しかしながら、アザミウマ類の防除が困難であることなど課題も残されています。御要望にある対象エリア（秦野、厚木、伊勢原、愛甲）と三浦半島地域との気象条件に違いがあることや品種が変わったことも踏まえ、収穫期間拡大など栽培技術面の試験に取り組みます。 葉ニンニクの消費PRについてですが、PRする先が消費者か業務かにより方向性が異なると思われます。栽培先進地の情報を提供する他、消費者のニーズを探るためのアンケート調査を行われる場合は、調査票の作成などのアドバイス協力をさせていただきます。また、6次化のための実需者への調査が必要な場合には、普及機関と調整を行いまして、御協力させていただきます。 なお、新規野菜のPRの第1歩は、消費者へのレシピの提供となります。2018年度の研究成果情報として、直売所の食育マニュアルを発行しています。その中で消費者が求めるレシピを作成するためのポイントをまとめてあります。各JAにお送りしておりますのでご覧ください。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			